



ホラアナゴマオカチグサガイが見つかった小岐須風穴



Vol.10

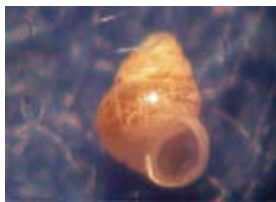
鈴鹿市の陸貝

陸貝という、まず「カタツムリ」を思い浮かべると思いますが、他にも多数の陸貝が知られています。実は、ナメクジも陸貝の仲間です。今回の調査では、市からは71種類の陸貝が記録されましたが、その中で特に珍しい陸貝を紹介します。

これから梅雨の時期に入り、普段あまり見かけない陸貝が身近に現れます。皆さんも一度、陸貝を観察してみたいかでしょうか。

ホラアナゴマオカチグサガイ (写真:小岐須渓谷)

殻の高さが2mmと非常に小さい貝で、石灰岩の洞窟内に生息しているため、「ほらあな」という名前が付いています。本市ではすでに1959年に生息が確認されており、今回も小岐須渓谷の石灰洞の中で、再度生息が確認されました。環境省の準絶滅危惧種にもなっています。



クチマガリスナガイ (写真:小岐須渓谷)

殻の高さが2.5mmと小さい貝で、石灰岩地域にのみ生息しており、石灰岩のくぼみや割れ目などに見られます。本市では、小岐須渓谷で確認されました。



ナガオカモノアラガイ (写真:竹野町)

殻の高さが12mmで、水辺の植物の茎や葉に見られます。本市では、岸田町、甲斐町、竹野町の水田や農業用水路で確認されました。近年、生息場所が減少してきています。



チビクロイワマイマイ

殻の高さが約22mmで、三重県の生息地は北中部地域に限られています。本市では、山本町、小岐須町で確認されました。

ヒラヒダリマキマイマイ (写真:小岐須渓谷)

殻の高さが20mmで、三重県での生息地は鈴鹿山脈に限られています。本市では、小岐須渓谷で1958年に初めて生息が確認されましたが、残念ながら今回の現地調査では、確認することができませんでした。



●・・・三重県レッドデータブック絶滅危惧種

◎・・・三重県レッドデータブック準絶滅危惧種

広報すずか 2008年6月5日号



先月、ミャンマーと中国で大きな災害が発生し、多くの人命と財産が失われました。被災地の方々には心よりお見舞いを申し上げます。

最近では、地球温暖化の影響などもあり、「災害は忘れたころにやってくる」ではなく、「災害は忘れる前に再びやってくる」ものに

変わってきたように思います。テレビで災害のニュースを見るときは、「被災地は大変だ」で済ますのではなく、わが身に置き換えて、改めて普段の準備や避難場所の確認、家族の役割分担を話し合うなどの備えをしてください。(真)

表紙写真

千代崎港 午後1時30分

撮影場所 千代崎港

撮影日 平成20年5月16日

撮影者 秘書広報課

発行/鈴鹿市 〒513-8701 鈴鹿市神戸一丁目18番18号 ☎059-382-1100(代表) 🌐http://www.city.suzuka.lg.jp/

編集/企画財務部秘書広報課 ☎059-382-9036 📠059-382-9040 📧hishokoho@city.suzuka.lg.jp

印刷・制作/身体障害者授産施設 八野ワークセンター印刷係 ☎059-375-4381

☎059-340-8810



古紙配合率100%再生紙を使用しています。この冊子は資源ごみの「新聞」に分別してください。

鈴鹿市携帯サイト
「元気モバイル」

